



古木圭介

昭和18年1月生まれ
株式会社グローバルユースビューロー専務、鹿児島サンロイヤルホテル専務など経て、平成21年7月より肥薩おれんじ鉄道株式会社代表取締役社長



岩切秀雄

昭和17年6月生まれ
川内市企画財政部長などを歴任、薩摩川内市副市長、平成20年11月より市長、現在2期目

ゆったり のんびり スローライフな旅を楽しむ

肥薩おれんじ鉄道の新しい観光列車「おれんじ食堂」が今月運行を開始します。今回の対談では、岩切市長と肥薩おれんじ鉄道古木社長に、「おれんじ食堂への思い」「今後の取り組み」などについて語っていただきました。

肥薩おれんじ鉄道株式会社
代表取締役社長

古木圭介

薩摩川内市長
岩切秀雄

おれんじ食堂にかける思い

岩切市長 いよいよ、おれんじ鉄道の食堂列車がスタートしますが、古木社長の思いをお聞かせください。

古木社長 おれんじ鉄道の沿線をずっと歩いてみて、「ここは新しい観光地になるな」というのが私の最初の印象でした。鹿児島島の観光地といえ

ば、指宿・桜島・霧島が定番となつていますが、新しい観光地を求めている観光客も多いと思います。その中で、この沿線の全国での知名度を上げるためにいろいろと検討した結果、沿線の食材を使用することで沿線の農水産業の方々と共同企画できる、「食」をテーマにした食堂列車を走らせることになりました。食堂車は全国から姿を消そうとしています

利用促進に向けた取り組み

岩切市長 おれんじ鉄道では、外国人観光客誘致に積極的に取り組んでいらつしゃいますが、これは思い切った施策だと思えます。

古木社長 年間日本には800万人から900万人ぐらいい、外国から観光客が来られます。日本の観光客が少なれば外国の観光客をお招きするのが観光の産業の一つのあり方だと思つています。東アジアでは、時代の流れは急速に進んでいて、海外旅行が一般的になりつつあります。人口当たりの海外旅行者数は台湾が日本よりも多く、例えば台湾と鹿児島島の航空路線は、搭乗している人の7割から8割は台湾の人です。韓国の人も週末に福岡に買い物に来られ

ます。そういう外国の方をこの沿線に招いてくることによって、日本人の観光客数の不足分を補っていくわけです。

岩切市長 私どもも、おれんじ鉄道の沿線の取締役として惜しみなく協力をしていかなければならないと思つています。沿線住民に、おれんじ鉄道がマイルールだという意識がなければ、乗客が増えないということが苦慮されるわけですが、先般行われたキンカンの植栽は、その意識を変えるための良いイベントだったと思つています。おれんじ鉄道の各駅に、沿線にある果物などを植栽することで、住民の意識は変わるのではないのでしょうか。今後も続けてPRしていただければと思つています。また、おれんじ鉄道の沿線には素晴らしい景色と食べ物がありますので、今後も引き続き活かしていかなければならないと思つています。本市にも、西海岸線や人形岩など素晴らしい風景が連なつています。また温泉や新田神社、可愛山陵など、観光的な要素はたくさんありますので、さらに乗客を増やす手段を考えていかなければならないと思つています。

古木社長 観光地の条件はシンプルなことですが、「自然環境という環境があること」「それから食を中心とした文化があること」と、また、「健康に良いこと」だと思つています。この3つの条件があればどこでも観光地といわれます。薩摩高城駅のあの辺は良い観光地になりますよ。あそこから眺める海は素晴らしいです。薩摩高城駅は温泉にも近いですし、環境と健康の条件がありますので、そこに食の条件を取り入れてうまく売ります。そのようにして知名度を高めていくことが、我々が捉えている観光の柱の一つです。

ので、逆の発想ですね。さらに新幹線のスピードに対する逆の発想で、ゆっくりこの沿線の景観を見ていただくという思いから、「おれんじ食堂」では「ゆったり、のんびり、スローライフの旅」を楽しめる快適な空間を演出しようと考えています。産業の空洞化は全国どこでも起こっています。それを防ぐために、これからは観光という切り口で交流人口を増大させ、観光という産業を日本も取り入れる時代がやって来たのだなと思つていますね。

岩切市長 甑島を観光の島として売り出そうと4年間取り組んできました。今度建造する本土と甑島を結ぶ新高速船のデザインを、「おれんじ食堂」のデザインをされた工業デザイナーの水戸岡氏に引き受けていただきました。同氏がデザインされた九州新幹線・おれんじ鉄道共に川内駅に停車しますので、同じ車内の雰囲気や甑島まで行つていただければとお願ひしたところです。駅から港へ向かうバスと待合所のデザインも同氏にお願ひしていますので、列車・バス・待合所・船と一貫して観光客も楽しめるのではないかと考えています。甑島観光のためにも「おれんじ食堂」は良い効果が望めると思つています。成功させるために一緒に頑張り

古木社長 観光地の条件はシンプルなことですが、「自然環境という環境があること」「それから食を中心とした文化があること」と、また、「健康に良いこと」だと思つています。この3つの条件があればどこでも観光地といわれます。薩摩高城駅のあの辺は良い観光地になりますよ。あそこから眺める海は素晴らしいです。薩摩高城駅は温泉にも近いですし、環境と健康の条件がありますので、そこに食の条件を取り入れてうまく売ります。そのようにして知名度を高めていくことが、我々が捉えている観光の柱の一つです。

岩切市長 最後に鉄道に関連し、本市に対して提案や要望がございましたらどうぞ。

点ではなく面でとらえる

「ここではこんなものがあります」などの観光客の目線に立つた情報を互いに共有していくことが一番大切だと思つていますので、今後もよろしくお願ひします。

ましよう。

観光地としての要素について

岩切市長 この沿線は新しい観光地になるとの印象をもたれたとのことですが、観光地としての大切な要素は何でしょうか。

古木社長 観光地として大切なことは、自分の街を自慢する「人」と観光資源である「食」、この2つははずせません。その街の人たちが、自分の街の自慢話をいかにたくさんするかだと思つています。薩摩川内市に限らずこの沿線には、まだまだたくさん自慢できることがあると思つています。また、大切な要素の中でも一番は「食」です。私にとっては地元産の鶏のから揚げ一つにしても大きな観光資源です。「おれんじ食堂」は、沿線の特産物を使用した料理や飲み物を列車に運び込み、皆さんに提供しようと考えています。



古木社長 観光客は薩摩川内市に来るのではなくエリアに来ます。結局、点ではなく面ですね。薩摩川内市に一番期待しているのは甑島の高速船です。我々としては、これと列車との共同企画を考えて欲しいと思つています。「川内駅におれんじ列車が入ってくる、その乗客が駅からバスに乗って港に行く、港から船で甑島に行つて観光し、帰りは新幹線で帰る」などのモデルルートをどんどん提案していただきたいと思います。川内川花火大会や川内大綱引などもあります。「ここではこんなものが食べられます」「こんなお祭りもあります」などの観光客の目線に立つた情報を互いに共有していくことが一番大切だと思つていますので、今後もよろしくお願ひします。

